



さまざまな困りのある生徒たちが実社会の創造・生産活動を経験的に学び、さまざまな人と出会い・関わりながら、他者を、自分を笑顔にする
※1ビジテックIは総合的な探究の時間につながる学校設定科目

(ビジテックIの概要)

工業と商業の基礎を経験的に学び、可能性を広げる。

自分たちの生活を支えている産業社会の基盤である、工業技術と商業知識について、「しる」「つくる」「かんがえる」の視点から、実習や演習を通じて経験的に学びます。ここでは単に知識や技術だけを習得するのではなく、「楽しい」や「もっと学びたい」という満足感や達成感を得ながら、自分の可能性に気づいてもらうことも大切な目標です。

学習領域例

学習内容

ものづくり

素材や道具に合わせて安全に適切に作業する技術や、空間や立体の成立に関する知識など、ものづくりに関わる基礎基本を、実習や演習を通じて学習する。



まちづくり

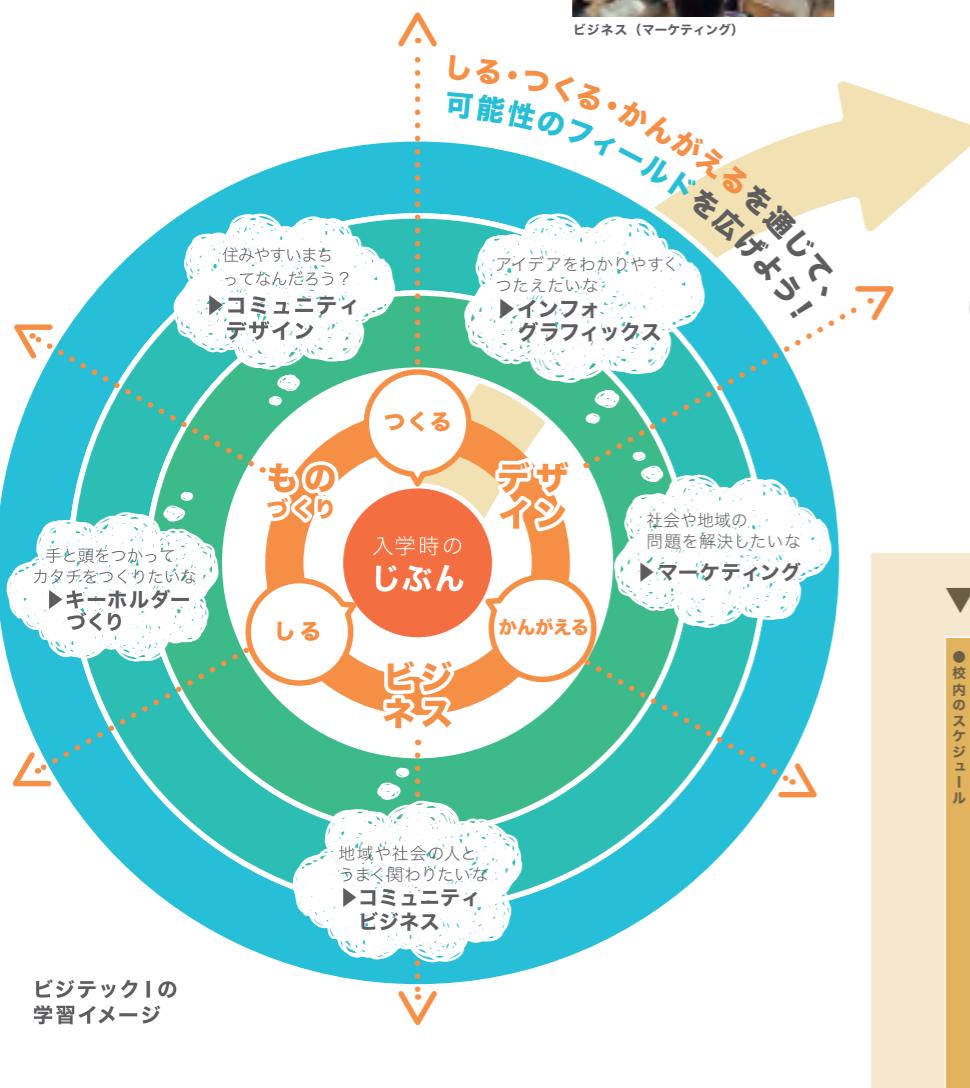
まちの構成や成り立ち、また時代とともに求められる社会やまちのあり方を考えるための基礎となる視点や方法について、フィールドワークやグループワークを通じて学びます。

ビジネス

社会の一員として働くためのスキルを様々なテーマのワークショップを通じて、ビジネスマナーやマーケティング、プレゼンテーションなどの各分野を学習する。

デザイン

情報を「整理」「分析」「編集」し、複雑で分かりにくいものを、わかりやすく簡単に示す過程を通じて、デザイン、とりわけ情報デザインの基礎的な思考方法・表現技術などを学習する。



(ビジテックIIの概要)

選び、深めながら「なりたい自分」のピースを形成する。

ビジテックIでの学びで得た自分の発見、「なりたい自分」を想像し、それを形づくるために必要な知識や技術について考え、「ビジネス」「ものづくり」「まちづくり」「デザイン」の4つの中から、より深めたい2つの分野を選択します。より特化した学習を通じて自分の領域を見つけることで、社会的アイデンティティの気づきにつなげます。

ビジテックIを経た 自分の可能性を認識する

ビジテックIの4つの分野の学びを経て、自分が得意なこと、初めて経験して新しい発見ができたこと、苦手意識の強いことなど、学びを通じた経験を振り返り、単にジャンルとして見るのではなく、共通点や今はまだ見つけられない可能性などにも想いを巡らせ、「なりたい自分」を形づくっていくために必要な要素から、2つのジャンルを選択します。



4つの選択分野

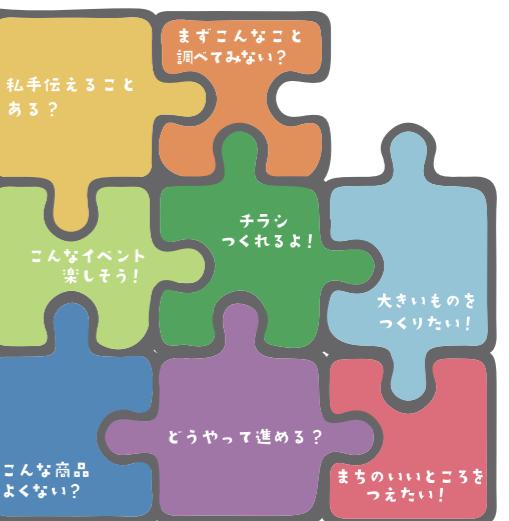
▶ デザイン分野

keyword
観察・図式化・スケッチ・アイデア・イラストレーター・写真・映像・コンペ
例えば…



ビジテックIII のイメージ

それぞれの得意を生かしたり、苦手を補ったりしてゼミ全員の力を協働させて目的を達成する。



▼ ビジテックIIIのテーマ



▼ ビジテックIIIの授業展開



「京都市総合企画局」・「京都信用金庫」・「龍谷大学」との併走による〈産官学高〉連携の授業デザイン

〈官＝行政〉京都市総合企画局

「市民参加」の推進を行う同局総合政策室の理念やテーマ、人的ネットワークを共有する。

〈産＝企業〉京都信用金庫

企業、とりわけ金融機関の強み、また同庫が有する「QUESTION」を社会実証の場として協賛を得る。

〈学＝大学〉龍谷大学

教職履修学生等有志団体による成果発表会を生徒と協働して具現化を通じた探究指導の興味関心の醸成。

京都市の思いと役割

✓ 外部コーディネーターとしての授業の併走

京都市総合企画局の所管する市民参加推進フォーラムでは、高校の授業において京都市における社会課題を題材に、より「自分ごと」として解決方法を主体的に考えること等を通じて、市民参加の裾野拡大を図ることを目指している。また、その過程で社会課題解決により組む団体や関係機関の紹介といった外部コーディネート機能を京都市が担い、「子どもががんばっていることを大人が応援する」ことを実現する。

外部組織から提供を受けるもの

✓ ファシリテーター

授業の併走・監修、教員研修や生徒委員との運営等も含めて継続的・直接的に授業活動に関わる講師を、同フォーラム委員でもある篠原幸子氏に依頼。

✓ 企画チェック

産官学によるアクションプランの評価、その後の事業成長を併走。

✓ 協力者紹介

生徒の企画立案の実行可能性を高めるための相談や協力者の紹介。

授業計画段階の連携の想定イメージ

企画立案×チェック

企画書評価や月例会を設け、それぞれの専門制や第三者的立場から実現可能性に対する助言や助力。

制作×資材・環境提供

制作するものの材料や規模に合わせてその資材や制作環境の提供、実技指導などを行ってくれる先との調整。

提言×連携先提供

各種提言をまとめる際に助言や指導を行ってくれる専門家の紹介や提言を発表する場の設定。

イベント×成果の市民還元

単なる開催場所の提供ではなく共催として事業を育て、その成果を広く一般市民に還元する。

連携の実際

金融機関ならではの連携システム

金融機関が行う「融資」による企業の資金提供と回収のための関わり方を「笑顔」に変換し、教育連携へのマッチを図る。

〈融資の原則〉

融資とは、お金を必要とする人に貸し、資金を融通すること。また金融機関は融資したお金を返してもらい、その利子を払ってもらう権利がある。

〈公共性の原則〉

社会の発展に役立つか

〈安全性の原則〉

支援に見合う笑顔が返ってくるか

〈成長性の原則〉

安全性を加味した笑顔が期待できるか

〈収益性の原則〉

安全性を加味した利子の設定

〈法令遵守の原則〉

法律に従った経営や事業であるか

〈京都信用金庫と京都奏和の融資の原則〉

融資とは、笑顔を創ろうとする人に企画の支援を融通すること。また京都信用金庫は支援に見合う「市民の笑顔」を受け取る権利がある。

〈公共性の原則〉

社会の発展に役立つか

〈安全性の原則〉

支援に見合う笑顔が返ってくるか

〈成長性の原則〉

安全性を加味した笑顔が期待できるか

〈収益性の原則〉

安全性を加味した利子の設定

〈法令遵守の原則〉

法律に従った経営や事業であるか

連携の意義とゴール

産官学のそれぞれの強みを最大化し、困りのある子どもたちが自信と誇りをもって「社会の創り手^{※3}」となる応援をする

実施主体

京都市立京都奏和高校

事業への
「融資」

京都信用金庫 QUESTION



産学官連携
による
探究活動

総合企画局総合政策室SDGs・市民協働推進担当



「利子」の
支払い

会場提供

プロジェクトのゴール
まちの「誰か」を笑顔にする

イベントの企画運営



高大連携体制締結校
龍谷大学

探究活動指導の育成も視野に入れた有償インターン^{※2}

「総合的な探究の時間」の学校が抱える課題を「次世代育成」の視点からアプローチする。

大学の課題 ▶

高校時代の経験はあれど指導者としての経験をつむことは難しい。

本校・京都市・京都信用金庫
とのプロジェクトに参画
(QUESTIONで開催される成果発表会の企画・運営)

◀ 高校(教員)の課題

学習者としても探究経験がなく指導に前向きに向き合えない。